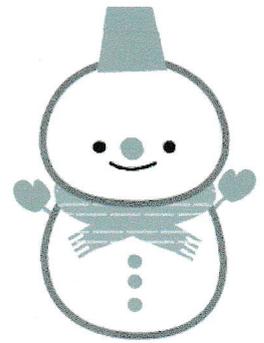




徳成寺 寺ともかわら版 第146号 2019年2月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

おかげ様で、先月「仏教に親しむ集い」がスタートしました。

道元禅師は、「仏道を習ふといふは、自己を習ふなり。自己を習ふ

というは、自己を忘るるなり」と仰ったそうです。仏道を学ぶことは

仏教の教義について詳しくなることではなく、むしろ自分自身が何者

なのかを知ることだと教えています。そして自分自身が何者かを知る事は

自分の考えや経験や主義などを忘るるかのように解き放たれることですよとも

教えているのです。つまり自分というものから自由になる。それが仏教の

しんめんぼく真面目です。もちろん生に対する執着や死に対する恐怖からも自由になる

のです。この度来られなかった方も、次回お出かけ下さい。

発行責任者
住職
大山健児
坊主
大山ひとみ



*子供おつとめ本を、ご希望の方はご一報下さい。

大山超世の耳を澄ませば



お世話になっています、長男です。

先月の 28 日に開催された仏教に親しむ集いに参加者はご参加いただきありがとうございました。暮らしの中の仏教語、今回は出世という言葉勉強しました。この言葉が実は仏教語であるという切り口で始まり、自分の考え方、物の見方で世間を見るのではなく、仏の教えに基づいて物を考えなさいと言う事を教えて頂きました。

当日私は副住職として初めて司会をさせて頂きました。非常に緊張しましたが、住職のフォローや和気藹々とした雰囲気のおかげで何とかこなす事が出来ました。お陰様で非常に良いスタートが切れたと感じております。今後ともよろしく申し上げます。